

# 土 壤 ガ ス 調 査



ドリルで削孔  
(地表面がアスファルト等で舗装されている場合)



ボーリングバーで採取孔を調整  
※直径15~30 mm 程度、深さ0.8~1.0m



孔を密栓し、一定時間（30分以上）放置後、  
捕集バッグ法により、土壌中のガスを専用  
のバッグに吸引採取。



## 分析

分析ラボあるいは現地で、バッグから  
土壌ガスを分析用の注射筒に採取。



注射筒から分析器（GC-PID/ELCD）に  
注入して分析。

# 土壌サンプリング

## 被覆物除去

地表面がコンクリート等で  
舗装されている場合は、  
コアカッター等で被覆物を  
除去



## 土壌採取



ダブルスコップによる採取



ハンドオーガーによる採取



ボーリングマシンによる採取



ボーリングマシンで  
得られるコア試料

## 採取孔復旧





# 土壤前処理・溶出液作成

風乾



ふるい分け (2mm) ・分取



ふるい



分取

中小礫、木片等を除き、土塊、団粒を粗砕した後、非金属製の2mmの目のふるいを通過させて得た土壌を十分混合し、分析必要量を分取する。

ろ過

振とう (6時間)



10~30分程度静置後、毎分約3,000回転で20分間遠心分離した後の上澄み液を孔径0.45  $\mu$ mのメンブランフィルターでろ過。

↓  
ろ液を検液とする。



試料と溶媒を重量体積比1:10割合で混合  
※混合液が500ml以上となるように

↓  
常温、常圧で6時間連続して振とう。  
※振とう回数：毎分約200回  
振とう幅：4cm以上5cm以下